

論文本編の書式について-ゴシック 14pt-

1. 基本事項

用紙はA4サイズとし、余白は上下左右とも25mmとします。ページ下部中央にページ数を打ってください。

以下の書式¹⁾にしたがい、図表や注釈、参考文献リストを含めた全体を5枚以上10枚以内に収めてください。表紙は不要です。

1.1 タイトル

第1行目に論文タイトルを30字以内で記してください(ゴシック体14pt)。サブタイトルを付す場合は、この文書のタイトル欄を参考にして、メインタイトルと合わせて30字以内を、すべて同じフォントで記してください。

タイトルと本文の間には2行分の余白を空けてください。氏名や所属を記さないでください。

1.2 本文

本文のフォントは明朝体11ptとし、1ページあたり1300字から1400字程度になるように調整してください。段組は1段を基本としますが、図表を挿入した箇所についてはこの限りではありません(下記、2を参照のこと)。章、節については、適宜たてていただいて構いません。

引用(他の文献に記載されている語句をそのまま掲載すること)をした場合には引用符(引用文を括る鍵カッコ「」)を、参照(他の文献に書かれている考え方などを参考にして文章を書くこと)をした場合には引用情報(例えば、“(木下、1994、p. 15)”などの表記)を適切に挿入してください。長文引用は改行のうえ字下げしてください。

1.3 参考文献と注釈

引用または参照した文献は、参考文献として論文末尾にまとめて記してください。引用方法や参考文献リストの書き方などは、戸田山(2002)をはじめとした論文執筆のための書籍²⁾に記載されていますので、適宜参照してください。オンライン資料を用いた場合には、通常の本誌情報(編著訳者名、刊行年、書名と出版社(もしくは論文名と雑誌名・巻号・掲載ページ))に加えて、URLまたはDOIならびに最終アクセス日を記載してください。

注釈を付す場合は、文末脚注(本文と参考文献の間におかれた注)としてください。

参考文献と注釈のフォントは、明朝体10~11ptとしてください。

2. 図表について

図表は本文の適切な箇所に挿入してください。図表にはタイトルと図表番号を付してください(ゴシック 10pt)。図1に例を示します。図と表とでは、番号を別立てとしてください。

審査は応募論文をモノクロ印刷して行われます。カラーの図表を使用する際は、モノクロ印刷時の見えかたにご留意ください。

本文中に図表を貼り込む際には、全体のファイルサイズが大きくなりすぎないように注意してください。応募論文のファイルサイズは、上限2MBが目安です。



図1 タイトル (ゴシック 10pt)

3. 応募の際の注意

応募の際は、論文本編の電子ファイル (Word または PDF) と応募用紙の電子ファイル (同) の2点を同時送信してください。メールの件名は「2017 論文コンテスト応募 (応募者名)」としてください。電子ファイル名は自由ですが、論文タイトルや自身の名前などを入れ、他の応募者の論文と区別しやすいようにしてください。送信先は info@cshe.nagoya-u.ac.jp です。

注

- 1) この文書そのものが応募書式にしたがって作成されていますので、参考にしてください。ただし見出し等の書式は設定してありませんので、ご注意ください。
- 2) 下記に参考文献として挙げているものは、論文の書き方に関する書籍の一部です。中央図書館や高等教育研究センター (文系総合館 5階) にて閲覧できます。

[参考文献]

荒木晶子・向後千春・筒井洋一(2000)『自己表現力の教室』情報センター出版局。

小笠原喜康(2002)『大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書。

梅棹忠夫(1969)『知的生産の技術』岩波新書。

木下是雄(1994)『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫。

河野哲也(2002)『レポート・論文の書き方入門』第三版、慶応義塾大学出版会。

佐藤望編著(2006)『アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門』慶應義塾大学出版会。

戸田山和久(2002)『論文の教室 レポートから卒論まで』NHKブックス。

樋口裕一(2002)『やさしい文章術—レポート・論文の書き方』中公新書ラクレ。

渡辺哲司(2013)『大学への文章学—レポート・小論文はコミュニケーションの手段』学術出版会。

Bailey, S. (2015) “*Academic Writing: A Handbook for International Students*”, 4th Ed. Routledge: Oxon.

(了)